

私立大定員割れ2年連続で改善 定員減の効果

日本私立学校振興・共済事業団が2026年度の私立大学・短期大学等の入学志願動向の調査結果を発表した。大学は志願者・入学者ともに増加し、入学定員充足率は2年連続でアップした。入学者数が定員を下回る定員割れ大学は私立大全体の46.2%（前年差-7.0%）となり、4年ぶりに40%台まで改善した。以下、調査結果から浮かび上がった2026年度入試の特徴を振り返る。

①私立大入試の状況

志願者数は6年ぶりに400万を超え、入学者数も増加

2026年度の私立大の延べ志願者数は4,317,128人（前年比109%）と大きく増加した＜図表1＞。18歳人口は前年並み（前年比100%）であったものの、一人あたりの受験校数が増加したことが要因とみる。

入学定員は約2千人減少し、志願倍率（志願者数÷入学定員）は前年の7.9倍から8.6倍へとアップした。合格者数は1,430,399人（前年比98%）と減少した一方、入学者数は514,277人（同101%）とやや増加し、ここ10年で最多となった。結果として定員充足率は102.7%（前年差+1.1ポイント）となり、前年から改善した。推薦等入学者数は274,381人（同100%）で、前年同様全入学者数の53%を占めている。

＜図表1＞私立大入試の実施状況

年度	大学数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦等 入学者数	志願 倍率
17	581	477,662	3,882,572	1,238,559	499,677	228,721	7.8
18	582	484,986	4,158,500	1,211,515	497,778	232,606	8.1
19	587	487,065	4,424,451	1,250,195	500,085	242,493	8.6
20	593	491,012	4,368,215	1,348,517	503,830	255,118	9.1
21	597	495,162	3,834,860	1,437,909	494,208	253,740	8.9
22	598	497,939	3,822,486	1,508,761	502,194	259,428	7.7
23	600	502,635	3,712,801	1,494,024	500,599	266,331	7.7
24	598	503,869	3,704,472	1,490,671	494,732	258,552	7.4
25	594	502,752	3,956,823	1,465,690	510,836	273,728	7.9
26	595	500,579	4,317,128	1,430,399	514,277	274,381	8.6

※日本私立学校振興・共済事業団資料より（図表2以降も同様）

※「推薦等入学者数」は「入学者数」の内数で、総合型選抜の数値を含む

都市部と地方では異なる動向に

＜図表2＞は大学所在地別でみた入試の状況である。全国的に充足率はアップしており、都市部以外も改善している様子がうかがえる。中国・四国地方は近年定員割れが最も深刻な地区だが、充足率は90%まで改善した。ただ、北海道・東北、甲信越地区も含め、依然として100%を下回る状況が続いている。一方で、大規模大が多い都市部を含む地区では充足率100%を超えている。九州地区で充足率108%、近畿地区で104%、北陸・東海、関東地区でも充足率が103%となった。

＜図表2＞大学所在地別 私立大入試の実施状況

北海道・東北

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	24,743	73,098	49,137	22,734	46%	92%
25	24,523	74,114	48,158	23,667	49%	97%
26	23,999	76,034	47,242	23,171	49%	97%

関東

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	252,035	2,051,521	753,322	253,264	34%	100%
25	251,254	2,208,880	735,959	259,943	35%	103%
26	251,042	2,376,559	701,610	259,283	37%	103%

甲信越

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	5,954	12,604	9,551	5,458	57%	92%
25	6,019	13,412	9,728	5,794	60%	96%
26	6,034	13,988	9,720	5,832	60%	97%

北陸・東海

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	51,684	320,377	163,417	49,747	30%	96%
25	51,454	337,058	159,488	51,505	32%	100%
26	51,093	375,729	155,951	52,712	34%	103%

近畿

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	115,325	1,032,087	388,621	113,401	29%	98%
25	115,314	1,096,524	385,322	117,159	30%	102%
26	114,548	1,228,687	392,580	119,001	30%	104%

中国・四国

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	22,385	66,826	47,816	18,195	38%	81%
25	22,619	67,185	48,284	19,699	41%	87%
26	22,221	72,979	46,532	20,091	43%	90%

九州

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	31,743	147,959	78,807	31,933	41%	101%
25	31,572	159,650	78,751	33,069	42%	105%
26	31,642	173,152	76,764	34,187	45%	108%

大規模大は合格抑制、小規模大の充足率は改善傾向

＜図表3＞は定員規模別にみた入試の状況である。志願者はいずれの規模でも増加しているが、増加幅が最も大きいのは収容定員8,000人以上の大規模大で、前年比110%となった。一方で、合格者数は前年比96%と大きく減少し、定員充足率も前年から2ポイントダウンした。収容定員超過が基準を超えた場合、助成金の減額や学部再編が認められないなどのペナルティが課される。ペナルティとなる基準は大学の規模ごとに設定され、大規模大になるほど定員を厳格に守ることを求められる。この基準を守るため、大学側が意図的に合格者数を絞り込んでいることが表れているとみる。実際いくつかの大規模大・中規模大では、前年入学者を確保しすぎ、今春の合格者数を絞りこむ動きが見られた。

収容定員4,000人未満の小規模大では、充足率99%まで改善した。入学定員をここ2年で約8千人減員した点が寄与している。ただし、都市部と地方に分けると、三大都市圏の小規模大は充足率102%と回復したのに対し、その他地域の小規模大は95%にとどまり、依然として定員割れが続く。定員割れが深刻な場合についても、助成金不交付などのペナルティが適用される。経営上のリスク回避のために、今後も充足率の低い大学では定員削減が続くとみられる。

＜図表3＞ 定員規模別 私立大入試の状況

①小規模大（収容定員4,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	163,748	523,360	298,179	145,504	49%	89%
25	159,223	511,600	288,667	147,968	51%	93%
26	155,692	530,031	293,198	153,435	52%	99%

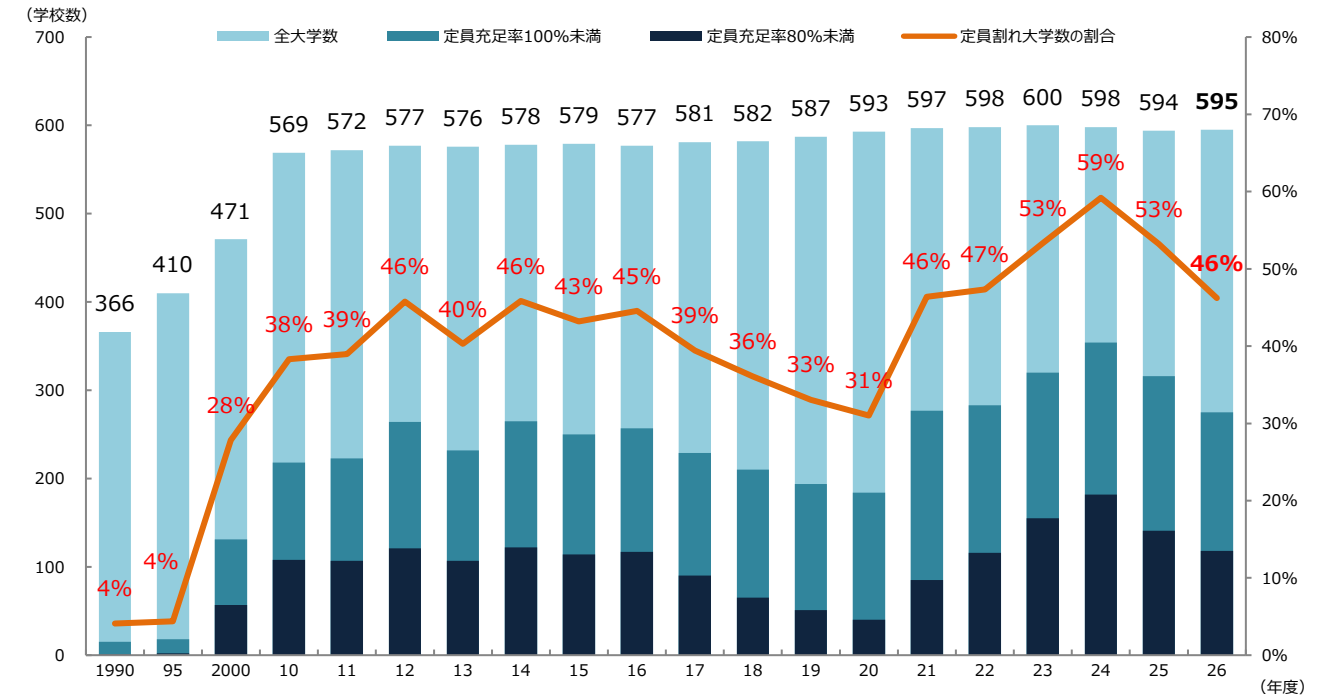
②中規模大（収容定員4,000人以上8,000人未満）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	123,635	925,010	404,219	125,278	31%	101%
25	126,238	996,399	395,857	132,650	34%	105%
26	124,347	1,085,983	386,084	132,097	34%	106%

③大規模大（収容定員8,000人以上）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	歩留率	充足率
24	216,486	2,256,102	788,273	223,950	28%	103%
25	217,291	2,448,824	781,166	230,218	29%	106%
26	220,540	2,701,114	751,117	228,745	30%	104%

＜図表4＞ 私立大 定員割れ大学の割合の変化



入学定員の減員により定員割れは改善傾向

＜図表4＞は私立大の定員割れ学校数の推移である。今春の定員割れ大学の割合は46%（前年-7%）となり改善傾向にある。これは小規模大での入学定員の減員によるところが大きい。2025・2026年度入試では定員割れが深刻な大学で定員減の動きが散見され、この2年で充足率80%未満の大学は182校→118校と大きく数を減らした。ただ、定員割れがより深刻な充足率50%未満の大学は昨年と比較して大きな変化はない状況だ。

＜図表5＞では学部系統別の入学定員の変化を示している。特に人文科学系、家政系の減少幅は大きく、この2系統だけで全体の定員減の大半を占める。この背景には、国の政策として文系学部から理工系学部への転換が促されていることがある。人文・家政系分野の減員は、大学が生き残りをかけて成長分野の学部へ転換しようという動きの表れであるといえる。そのほか、薬・保健では定員の削減が続く。特に薬学部は、国から過剰な薬剤師養成の是正を求められており、これを受けて2025年度から募集人員の削減や募集停止が進んでいる。この動きも今後継続するとみられる。

＜図表5＞ 学部系統別 入学定員の変化

系統	2025 入学定員	→	2026 入学定員	2026 -2025
人文	68,294	→	66,556	-1,738
社会	174,986	→	174,743	-243
理工	60,799	→	60,295	-504
農	8,980	→	9,020	40
医	4,240	→	4,233	-7
歯	1,941	→	1,938	-3
薬	11,176	→	10,926	-250
保健	41,269	→	40,987	-282
家政	14,529	→	13,207	-1,322
教育	18,915	→	18,905	-10
体育	4,670	→	4,610	-60
芸術	14,476	→	14,804	328
その他	78,477	→	80,355	1,878
全国計	502,752	→	500,579	-2,173

②私立短大入試の状況

志願者減少が続く短大

2026年度の私立短大の延べ志願者数は34,546人（前年比98%）となった＜図表6＞。志願者数は減少が続いており、10年前と比較すると半数以下まで落ち込んだ。短大の進学を希望する受験生が減少傾向にあることから、この2年で学校数は44校も減少している。

合格者数は30,545人（前年比95%）で志願者の約9割が合格していることになる。入学者数は26,370人（前年比94%）となり、年々減少している。

＜図表6＞ 私立短大入試の実施状況

年度	短大数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	推薦等入学者数	志願倍率
17	304	59,116	78,338	64,244	53,389	38,012	1.3
18	301	58,161	75,631	61,904	51,214	35,483	1.3
19	297	55,892	72,583	59,527	48,704	33,138	1.3
20	291	53,717	70,019	57,871	46,901	32,075	1.3
21	286	52,242	60,363	53,452	43,132	29,649	1.2
22	279	50,857	53,436	48,014	39,461	27,334	1.1
23	276	48,817	45,990	41,779	35,141	24,293	0.9
24	272	44,607	40,081	36,722	31,293	20,457	0.9
25	249	38,038	35,236	32,315	28,086	17,639	0.9
26	228	32,165	34,546	30,545	26,370	16,021	1.1

定員割れの短大は減少したもの、縮小が続く

＜図表7＞は私立短大の定員割れ大学の割合の変化である。今春の定員割れ短大の割合は77%と改善し、学校数も220校→176校と減少した。これは入学定員が前年から約6千人減員されていることが大きな要因である。また、定員割れが深刻な充足率80%未満の短大数も募集停止などによって減少している。来春も募集停止を発表している大学が14校あり、短大の縮小はより一層進む。定員割れ短大数の割合は数値上は改善されそうだ。

＜図表7＞ 私立短大 定員割れ大学の割合の変化

